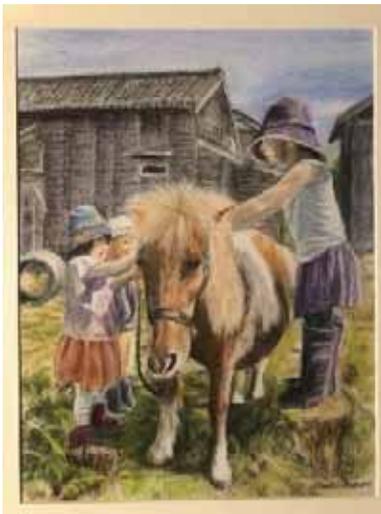


立山から生まれる 農村ルネサンス

坂口 創作

白雪農園代表
釜ヶ淵みらい協議会
(地域資源開発部門長)



農林水産省・北陸農政局
食料・農業・農村基本計画
意見交換会（北陸ブロック）



農村・農業の課題

現象 集落・農業の担い手がいない

予測 農村・農業・農地の継続が困難

試み 農村・農家をどう作るか？

自然栽培プロジェクト(農村RMO)

「自然栽培」により農業・農村を再生する

学ぶ

(就農希望者参集)

立山農学校

2023-



自然栽培米づくり(荒生秀紀博士)・自給自足(廣和仁氏)、自然栽培(木村秋則氏)などの講座を開催。各会30-100名が集まる人気プログラムに。地域への技術導入だけでなく、自然栽培で就農を希望する就農予備群が地域に集まる流れに

実践する

(耕作放棄地再生)

Commons立山

2023-



自然栽培に興味を持つ人の大半は土地・設備を持たない非農家。実践用に無農薬栽培に限定した共同農園を開設。共同利用の機械や施設もあり。大小様々な耕作放棄地を活用して、農家予備軍、家庭菜園愛好者、ウーファーまで幅広く参加

助け合う

(自然栽培産地形成)

立山自然栽培組合

2025-



小規模な自然栽培農家が続々と誕生へ。こうした農家同士が機械利用、販路開拓において協力する取り組みを開始。無理なく自然栽培を続けられる場となることで立山を世界につながる自然栽培産地へ

Commons Tateyama

多様な実践者集まる入会農園



立山自然栽培組合

自然栽培農家同士が協力できる場

思いなどを語り合うメンバー



自然栽培の輪を広げたい

農家らグループ立ち上げ

立 立山町で自然栽培などに取り組む農業者グループ「立山自然栽培組合」が29日、設立された。20〜70代のメンバー9人全員が町外出身者で新規就農者3人も加わる。栽培ノウハウや人手、農業機械、販路の共有などを通じて、コメを中心に自然栽培などの輪を広げることが目指す。代表世話人は白雪農園（同町末谷口）の坂口創作さんが務める。坂口さんが企画する自然栽培の農法などを学ぶ「立山農学校」の受講生や、新規就農者が増えていることから、町や周辺自治体の農業者同士が

気軽に協力し合える機会をつくらうとグループを立ち上げた。

29日は白雪農園のゲストハウス（同町吉峰野開）にメンバーが集まり、意見交換して思いなどを語り合った。春から農作業の協力をスタートする。坂口さんは「自然栽培に取り組む農業者は小規模なケースが多く、都会地などの高いニーズを捉え切れていない。輪をつくって仲間を増やしたい」と話した。

組合として町内の全小中学校の給食向けにオーガニックのコメを寄贈することを計画している。



いかにして農家を作るか

就農希望者との接点

立山農学校

Commons立山
(入会農園)

とやま農業未来
カレッジ

立山収穫祭

紹介・つながり
ゲストハウス

基盤ゼロ

就農支援 (経験・機械・土地)

学び・実践経験

(立山農学校・作業手伝参加)

農機具シェアリング

(離農者の農機具集積
& 農機具シェアリング)

圃場提供

(Commons 立山)

新たな農家

(累計で10軒以上)



未来への布石・こども（里のようちえん、釜ヶ渚小）

2023年(令和5年)6月3日

土曜日

地域ニュース

24



町内の交流施設に集まり交流するスタッフや利用希望者ら

「里のようちえん」プレ開園

白雪牧場拠点 自然体験を重視

【立山】 自然活動を通じて子どもの自主性や感性を育む保育施設「里のようちえん たてやま」が2日、立山町末谷口の白雪牧場にプレオープンした。運営するのは認可外保育施設「森のようちえん まめでっぽう」（富山市婦中町東谷、五十嵐恵美代表）。

9日からの活動本格化を前に、関係者らが町内で意見交換して交流を深めた。

森のようちえんは、同市婦中町東谷の施設を拠点に、自然体験を重視した保育を行う。今回、森のようちえんのマルシェに出店する「M.E. 文米」こと大石雅和さんが牧場との間をつ

ないだ。町域おこし協力隊員の大石さんと牧場代表の坂口創作さんは釜ヶ渚地区の活性化プロジェクトに取り組み仲間。立地環境が姉妹園設立を目指す施設側の思いにぴったりだった。

里のようちえんでも、ポニーの親子が暮らす開放的な場所を生かし、里山の自然や人の営み、文化に触れる保育を行う。

2日は豪雨が予想されたため、牧場近くの交流施設「谷口集学校」（谷口）にスタッフや地元協力者、利用希望者が集った。当面は毎週金曜の午前10時〜正午に開園する。将来的には時間を延ばし、月々金曜の開園を目指す。未就学児の親子や保育士、賛同者を募集しており、フェイスブックページ「里のようちえん たてやま」に情報を載せている。



Photo by Hiroki Tagawa

報告者：坂口 創作（白雪農園代表、釜ヶ淵みらい協議会・地域資源開発部長）

2016年に家族で東京より移住。とやま農業未来カレッジを経て新規就農し、2018年に白雪農園を設立。白雪農園では、自然栽培にてお米（2町）、大豆、ぶどう、蜂蜜、さつまいもなど多様な品目を栽培。NPO法人クラシーズ理事(わくわくファームきらり:障害者雇用施設)、「里のようちえん」世話人、自然栽培農家育成プログラム「立山農学校」主催、市民農園「Commons Tateyama」運営、「立山自然栽培組合」代表世話人、エコビレッジ「立山村」（立山にて3軒のゲストハウスを運営、白雪ゲストハウスは富山県第一号登録の民泊）、「立山収穫祭」主催（2021年～）、立山キッチン共同代表、耕作放棄地再生(最適土地利用：白雪牧場・立山養蜂園)、空き家再生(8軒)、「農家を育てる農家」として新規就農者育成(5年連続して毎年1-5名を育成)。また、農家（農村）を再興するには、長期的な取り組みが重要であるとの考えから、保育園、小学校、中学、大学、社会人まで積極的に農園に受け入れている。農業・加工・観光・福祉・教育など分野をつなぐ活動によって、未来の農村づくりを行う「百姓」。

<お問い合わせ先>

白雪農園 代表 坂口 創作

HP <https://snow-white-farm.com/>

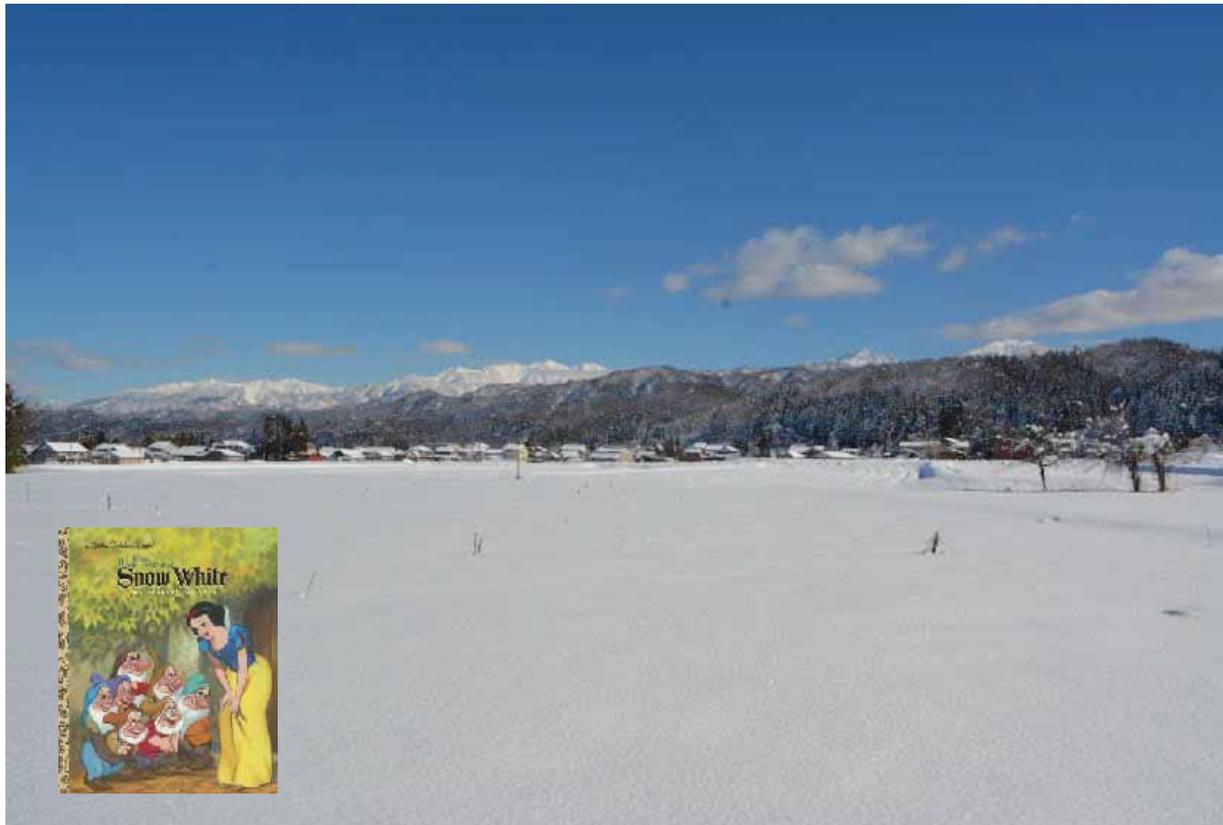
Instagram @snow.white.farm



參考資料

概要

- ・ 屋号：「白雪農園」 Snow-white farm
- ・ 開業：2018年1月 耕作放棄地を取得
- ・ 圃場：立山で様々な拠点（5ha）
- ・ 体制：家族・ポニー親子・地域の仲間



百姓の営み

農業・林業・観光・地域・教育・伝統



Farm & Art Fest
立山収穫祭



Kindergarten
里のようちえん



Guest House
白雪ゲストハウス



Horse ranch
白雪牧場



Bee keeping
立山養蜂園



Community garden
コモンズ立山



Pilgrimage Inn
宿坊立山



Farm
白雪農園



Charcoal
目桑白炭



House Renovation
空き家再生



Farm school
立山農学校



Forestry
立山縄文会

2018

2019

2020

2021

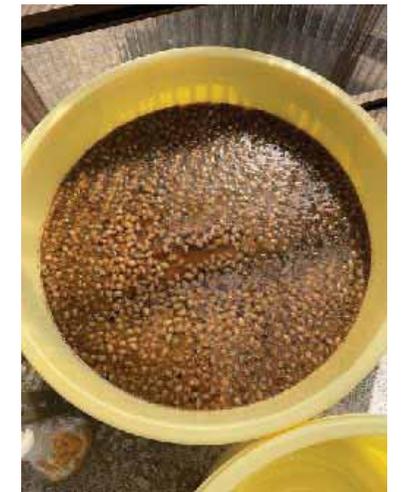
2022

2023

2024

白雪農園

自然栽培 & 有機栽培でさまざまなものを育てる + 加工



白雪牧場

耕作放棄地から生まれた牧場（ポニー・養蜂・ツリー）

→ 「最適土地利用」（農林水産省）の端緒事例

生産（稲作・養蜂）＋ 娯楽（体験・収穫祭）＋ 教育（原っぱの学校・里のようちえん）



農泊

- ・白雪ゲストハウス（18年6月）： 富山県の民泊第一号
- ・白雪ゲストハウス別館（23年8月）： 立山初の農家民宿
- ・宿坊立山（24年3月）： 現代の宿坊として巡礼宿を復活
→ 農村の新たな生業づくりへ（農家の補完的な所得源に）
→ エコビレッジ「立山村」（循環型コミュニティ）を構想



伝統（立山信仰）と農泊

北日本新聞社 2024/03/30

現代の宿坊オープン

地域ワイド

内覧会で宿坊立山を見学する関係者ら



立山の坂口さん

信仰復興へ古民家改修

立山町鋤物師沢の築140年以上の古民家が、かつて立山への登拝者をもてなした「宿坊」をイメージした宿泊施設に生まれ変わった。白雪農園(同町末谷口)の坂口創作代表が、多くの支援や地域の職人の協力を受けて改修。「立山信仰を現代によりみがえらせるための拠点にしたい」と話す。

(柵高浩)

宿泊施設の名称は「宿坊立山」。坂口さんによると、立山信仰の源流とも言える修験行者や山伏の生き方を模した滞在をしよう。宿泊費は素泊まりで1人1泊5千円。友人や知人を通じた紹介制で予約を受け付ける。

再生した古民家は木造一部2階建て。1878(明治11)年に登記された。町西部の農村地帯・釜ヶ淵地区で、富山地鉄立山線の沢中山駅そばの集落にある。

坂口さんが「日本三霊山の立山に巡拝者を集めたい。その舞台として立山に現代の宿坊をつくる」との決意で約3カ月かけて改修し、施設をオープンさせた。3月中旬に内覧会があり、関係者は坂口さんの思いがこもった施設の完成を祝った。

坂口さんが運営する宿泊施設は3カ所目となり、今後は「分散型ホテル」としても運用する。「観光や歴史ではない「生きた立山信仰」を復興したい。将来的には農家や子どもも集まり交流するコミュニティにしていきたい」としている。

立山収穫祭

- 毎年文化の日（11/3）に開催 2021年～
- 「農」と「芸」を楽しむ豊かな時間を過ごす
- 原っぱの「手作り」パーティーでつながりを育む

<2022>

<https://youtu.be/LtWqHabYPz0?si=QJoY20hD3BD4iC1D>

<2023>

https://youtu.be/iAzuuIB7OKM?si=BDy_393yu_PJ3O8S

<2024>

<https://youtu.be/ApzZYckmiDc?si=81SoOyT2m3UGLEQn>



空き家再生

空き家と移住者・新たな用途つなぐ(累計8軒)



移住者の誘致

多種多様な接点

(年間数十件の相談)

里のようちえん

立山農学校

とやま農業未来カレッジ

白雪農園訪問者

宿坊立山・白雪ゲストハウス

立山収穫祭

立山町 (空き家バンク)

県移住コンシェルジュ

インフルエンサー移住者

岩崎さん・大石さん

重点ターゲット

- ・ 就農希望者
- ・ 子育て世代
- ・ インフルエンサー



移住へ

(累計10軒+)



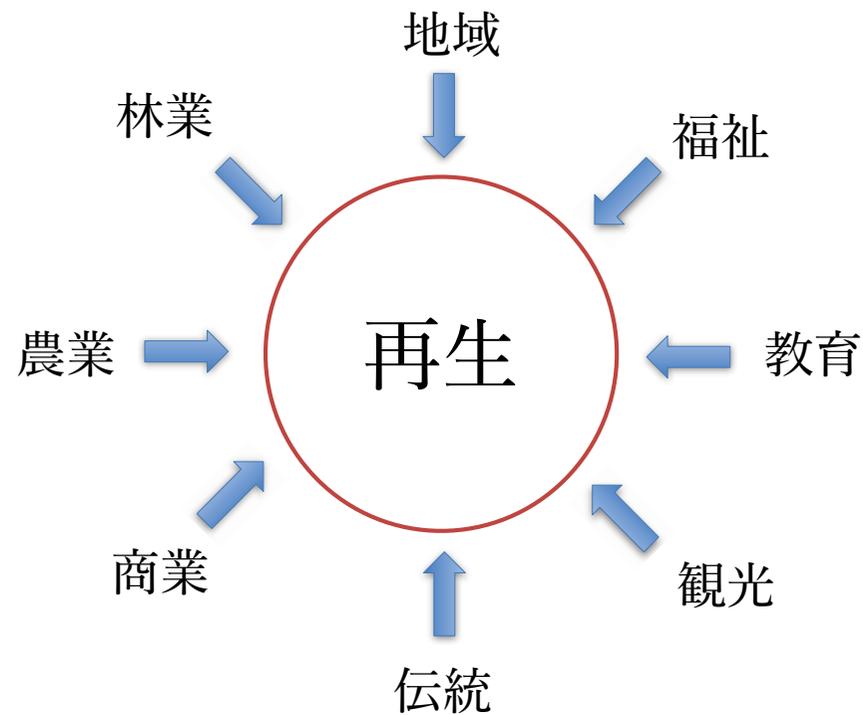
移住・就農・空き家再生
の実績 (信用) が蓄積



さらなる相談・移住へ

百姓の本質：再生＝組み換え

百姓 = 多様な営みとつながり



新たな**組合せ**と**循環**をつくり**再生**